

2024国際航空宇宙展、APAQG東京会議、 IAQG東京会議について

1. はじめに

令和6（2024）年10月は、JAQG（Japan Aerospace Quality Group：日本航空宇宙品質センター）にとって、慌ただしい月を迎えることとなった。10月16日（水）～24日（木）の9日間連続で、東京において以下に示す大きなイベント及び会議に臨む形となったからである。

- ・2024国際航空宇宙展（10月16日～19日）
於 東京ビッグサイト
- ・APAQG東京会議（10月20日）
於 ウェスティンホテル東京
- ・IAQG東京会議（10月21日～24日）
於 ウェスティンホテル東京

2024国際航空宇宙展（以下、JA2024）は、日本航空宇宙工業会（以下、SJAC）と東京ビッグサイトの共催により開催された、4年に1度開催される日本国内における最大規模の航空宇宙関連の展示会である。今回、IAQG（International Aerospace Quality Group）はSJACからの案内によりJA2024への出展を

決めた。このような展示会への出展はIAQGにとって初めての試みである。日本開催、加えてJAQG事務局を置くSJAC（以下、JAQG/SJAC）主催と言うこともあり、JAQGとしても大いに貢献できたものと自負している。

続く10月20日（日）にAPAQG（Asia-Pacific Aerospace Quality Group）の秋会議をウェスティンホテル東京にて開催した。例年9月に3日間かけて開催する会議のところ、今年はJA2024とIAQG秋会議の合間の1日に開催することとなった。

さらに続く10月21日（月）～24日（木）に、IAQGの秋会議が同じくウェスティンホテル東京にて開催された。欧州から遠く離れた日本開催にも関わらず140名以上の参加者を得、JAQGからも数多くのメンバーが対面で会議に参加した。

以下にこれら3つのイベント及び会議の概要について報告する。



IAQGブースの様子

2. JA2024

前述の通り、IAQGはJA2024に初めてブースを出展し、10月16日（水）～18日（金）の3日間のトレード・デーにおいて、およそ100名の訪問があった。19日（土）のパブリック・デーにも多くの方にご来訪（来訪者の集計データはトレード・デーのみ収集）頂いた。

来訪者から最も多く寄せられた質問は、「IAQGは何をしている会社か?」と言うものであった。航空宇宙品質保証規格である9100シリーズ規格を作成、運用している組織ですと言うと、「ああ、9100規格ですか」という反応で、航空宇宙関係者において、9100規格は知っていても、それとIAQG及びJAQGの活動と結びついていないと言うことが明確となった。

この状況についてはIAQGと認識を共有し、今後は9100シリーズ規格と結び付けてIAQGの存在感を示す方向で一致した。

展示会への出展経験を積んだこと、多少なりともIAQGの存在を業界関係者に示すことができたことは有意義であり、今後の活動として継続的につなげてゆくことが必要不可欠であると感じた。

IAQGブースの設営にあたっては、前頁写真にあるロールスクリーンや来訪記念品（ペンと眼鏡拭き）などの手配及びブースの設営をJAQG/SJACにて支援し、JA2024期間中に於いては、(株)IHI及び(株)SUBARUから支援者をそれぞれ派遣、来訪者への懇切丁寧な対応に当たって頂いた。この場を借りて御礼申し上げます。

ご支援頂いた方々（五十音順）

(株式会社IHI) (株式会社SUBARU)

櫻庭 陽介 様	飯山 修 様
陶山 修二 様	川端 優太 様
寺内 美和 様	塚原 孝則 様
寺山 知秀 様	中村 瑞城 様
中村 俊介 様	林 大貴 様
西尾 珠樹 様	福島 綾音 様
蜂須賀 剛 様	
廣田 貴久 様	

JA2024の様子については、後述するIAQG総会においてIAQG会長より紹介され、この中でJAQG/SJAC（特に上記支援者を含む）に対する謝意も示された。



IAQG総会にて示されたJA2024の様子（写真左はIAQG会長）
（Thanks to SJAC for support! の文字が見える）

3. APAQG東京会議

2024年10月20日（日）に東京の恵比寿にあるウェスティンホテル東京にて、APAQG（Asia-Pacific Aerospace Quality Group：アジア太平洋地域航空宇宙品質グループ）東京会議を開催した。APAQGはIAQG（International Aerospace Quality Group：国際航空宇宙品質グループ）傘下の地域組織で、JAQGはその一員として、IAQGの活動戦略目標に対応したAPAQG内の活動方針決定や、IAQGに対するAPAQGからの意見提言等においてリーダーシップを発揮している。以下、今回の会議についての報告を行う。

3.1 会議の概要

会議はAPAQGセクターリーダーの上原氏（川崎重工業株）の歓迎のあいさつに続き、サブリーダーの陶山氏（株IHI）の進行で、



上原氏（川崎重工業株）



ウェスティンホテル東京



陶山氏（株IHI）



総会の様子

自己紹介、投票者の確認、前回評議会の議事録確認と続き、その後各プロジェクトの活動報告、各国の活動報告を行い、最後に評議会を実施して終了した。以下、概要を示す。

(1) APAQG東京会議の参加国及び参加組織

(服部 明子 APAQG Secretariat (SJAC))

APAQG東京会議には、アジア・太平洋地域の航空宇宙関係36組織が参加した。

ア 日本

三菱重工業株式会社、川崎重工業株式会社、株式会社IHI、株式会社SUBARU、日本電気株式会社、三菱電機株式会社、株式会社IHIエアロスペース、公益財団法人防衛基盤整備協会 (BSK、ゲスト)、日本検査キューエイ株式会社 (ゲスト)、日本航空宇宙工業会 (SJAC)

イ 中国

AECC (Aero Engine Corporation of China)、AVIC (Aviation Industry Corporation of China)、COMAC (Commercial Aircraft Corporation of China)、Honeywell China、(オンライン) Boeing Tenjin

ウ 韓国

KAI (Korea Aerospace Industries)、KAL (Korean Air Aerospace Business Division)、Hanwha Aerospace、LIG Nex1、Hanwha Systems、KAIA (Korea Aerospace Industries Association)

エ シンガポール

UTC (United Technologies Corporation)、(オンライン) AAIS (Association of Aerospace Industries (Singapore))

オ インド

Dynamatic Technologies Limited、TATA Advanced Systems Limited、(オンライン) KUN Aerospace、HAL (Hindustan Aeronautics Limited)、MOOG INDIA

TECHNOLOGY CENTER PVT LTD、Expleo Technologies India Pvt Ltd、Bharat Forge、SLN Technologies Pvt. Ltd、Mahindra Aerostructures Pvt Ltd.、NACCB (インドのAB。ゲスト)

カ インドネシア

(オンライン) IAe (Indonesian Aerospace)

キ フィリピン

(オンライン) Moog Controls Corporation

ク 台湾

AIDC (Aerospace Industrial Development Corp.)

3.2 APAQG活動報告

(1) COT (Certification Oversight Team)

(小薬 正幸 IAQG COT APAQGセクターリーダー (株式会社IHI))



ICOTおよびAPCOTの構成、メンバーと役割、セクター内の承認／認知された組織に関する統計値、今年のチーム活動、IA9104シリーズ／IA9101の移行状況、ならびにインドRMS (Regional Management Structure) 設立の進捗状況について報告された。オーバーサイト活動は、セクターレベルと国レベル (日本と韓国) の両方で予定どおりに進捗している。移行に関する要件を規定する補足規則 (SR005) のドラフトは日程を除いて内容はほぼ確定しているが、規則で「T0」として定義されている移行再開日は、IA規格類の翻訳や、新規

格要求による新しい機能をシステムに組み込むためのOASIS V3の開発など、移行再開に必要な主要な活動の進捗状況がまだ不確実であるため、まだ具体的には設定されていないことが報告された。

(2) IAQG Performance (パフォーマンス) 活動報告

(池崎 隆司 APAQG Performance チームリーダー (株式会社IHI))



IAQGからは、Performanceチームのセクターリーダー含めて2名が活動に参加している。本会議では、IAQGのHPへの登録者を対象に今年初めて実施したアンケートの結果が報告された。アンケートへの回答者は全体的に品質分野で15年以上の経験を有する者が多いが、その中でアジア・パシフィック地区では欧米に比べると経験の少ない人が多い傾向にあり、比較的若い人が航空・宇宙・防衛産業に従事していることを示す結果であるとの分析結果が紹介された。また、IAQGが産業界の品質改善に寄与しているとの意見が多い一方で、サプライチェーンの品質改善に寄与していると考えられる人はこれより少ない傾向であることも紹介され、改善の余地があることが示唆された。最後に、毎年実施しているメンバー会社に対するアンケートを、3部構成で12月に実施予定であることが報告され、協力が依頼された。

(3) スペースフォーラム活動報告

(立岡 啓人APAQG スペースフォーラムリーダー (日本電気株式会社))



評議会では、分科会の活動として、9月に開催されたAPAQGスペースフォーラム(以下、SF)会議の結果をはじめ、IAQG-1 SMC(Standards Management Committee)において、宇宙ステークホルダーが投票権を所持する機会検討に対してアジア太平洋地区から宇宙航空研究開発機構(JAXA)殿による投票権の所持が開始されたこと、並びに今後のSFの活動計画が共有された。

SF会議では3カ国(インド/韓国/日本)から12名の参加があり、SFの環境分析並びに活動状況/計画、各国共有としてJAQG SF活動の近況共有、また固有活動としてSCMH7.17章「宇宙分野への適用」の次期改版に向けた活動状況共有や、SF会社によって実施された9100成熟度評価モデル(AIMM: Aerospace Improvement Matured Model)のトライアル事例の共有等がなされた。また、2024年11月には、オーストラリア パースにおいて開催されるアジア太平洋地域宇宙機関会議(APRSAF-30; Asia-Pacific Regional Space Agency Forum)に参加し、IAQG/APAQGに関するプロモーション活動を実施することが紹介された。

評議会において各国参加組織に対し今後の更なる各国の関係強化のための継続的な参加の呼びかけがなされた。

(4) Early Careerプロジェクト

(上原 美基 APAQGセクターリーダー
(川崎重工業株式会社))



本活動の目的は若い技術者 (trainee) に IAQGの現役メンバー (mentor) の支援による実活動経験を通じてエンゲージメント機会を提供することである。2024年のプロジェクトは3月にバンコクから始まって、各traineeによる毎月のIAQG活動報告 (Executive Committee、Operations Council、Performance や Standardなど) を実施していること、また、他セクターとの共同でSNS (Social Networking Service) によるコミュニティー (Rockets Lounge) も計画している。本プロジェクトは最近加入者によりtrainee 7名に増員しており、その活動期間確保のため来年3月のAPAQGまで延長することとしたことが報告された。

(5) PSCI (Product & Supply Chain Improvement Team) 活動報告

(Zuozheng Lou (COMAC))

IAQGレベルでのPSCIチームのメンバー交代について説明がなされ、次にAPAQGレベルでのチームメンバーの紹介がなされた。

続いて、SCMH (Supply Chain Management Handbook) の更新内容について紹介され、特に偽造品防止が重要なトピックであるとの説明がなされた。



(6) 9100規格チーム活動報告

(西口 潤 9100 APAQG SDR (Sector Document Representative)
(三菱重工業株式会社))



2021年にIAQGでIA9100改正チームが立ち上がり、APAQGでも9100セクターチームを発足している。IAQG/APAQGレベルでの活動を進め、2023年11月から12月の期間で調整ドラフトに対するコメント募集が展開され、前回のAPAQGバンコク会議ではAPAQGとしての意見を纏めるため、APAQG9100チーム会議を実施し、処置方針を協議した。2024年春のIAQGブリュッセル会議では、各セクターでの検討結果を基に、IAQGレベルでの処置方針を協議/決定し、IA9100規格改正案に反映した。

IAQGブリュッセル会議でIAQG 執行委員会 (Executive Committee) より、IA9100規格

改正に対するプロセス透明性確保の為、9100 独立レビューチーム立ち上げが発表され、IA9100規格改正は一旦立ち止まっている。また、ISO9001改正が遅れており（2026年9月発行予定）、これらの状況を鑑み、IA9100規格改正スケジュールをIAQG執行委員会とともに協議していくことが報告された。

また、IAQG東京会議でAPAQGを代表してHAL社（インド）がAIMM（Aerospace Improvement Maturity Model）活用経験を発表することになっており、業界への貢献に対し、HAL社への感謝が伝えられた。

3.3 各国報告

(1) 日本 (JAQG)

（高橋 伸英 JAQG幹事長
（株式会社SUBARU））



Single SDO（Standard Development Organization）についての報告がなされた。特に著作権や具体的翻訳要領について検討中であることが報告された。翻訳物を利用するユーザーが困らないようにする、という観点で調査・検討をしている点が強調された。また、IAQGが企画した9100の独立レビューへの参加についても説明がなされた。

続いてJAQGの各ワーキンググループの活動や、ベストプラクティスが以下の通り報告された。

- ・ IAQGの規格の和訳を継続的に実施中。前回バンコク会議以後、SJAC9125を発行。
- ・ AIMM v1.1の和訳を継続中。
- ・ SCMは、7項目について和訳中。9月にはSCMH 3.2 FAI（First Article Inspection）に関するウェビナーを開催。
- ・ 特殊工程WGでは、AC（Audit Criteria）チェックリストの和訳を継続中。PRI（Performance Review Institute）Board of Directorへ参加。
- ・ スペースフォーラムではステークホルダーとの関係強化を図るとともにAPRSAF-30参加準備中。
- ・ エンジン品質勉強会を立ち上げ（参加は4社）。4月にサプライヤーフォーラム（東京）へ参加。2か月に1回のペースでAS13100に関する活動を継続中。

(2) インド (InAQG)

（Vijayshankar Kharpatturam PRAJAPATI
（TATA ADVANCED SYSTEMS LIMITED））



グループのこれまでの歩み、会員の最新情報、認証状況の概要が説明された。英国RMS（UKRMS）の支援によるインドにおける認証監視プロセス（ICOP：Industry Controlled Other Party）スキームの確立は、重要な成果として強調された。このプレゼンテーション

では、InAQGのIAQG主要イニシアティブへの参加、例えば規格作成委員会やアーリー・キャリアなどについても取り上げられた。また、今後の計画についても話し合わせ、財務モデルの決定、ウェビナーの実施、InAQG内のコミュニケーションの安定化などが報告された。インドにおける9100シリーズ認証の増加も強調された。

(3) 韓国 (KAQG)

(Min-Goo Park (KAI))



AS9100からKSQ9100への認証移行、特殊工程監査の完了、新しいトレーニングプログラムの開発、韓国における9100シリーズの認証状況など、グループの活動に関する最新情報が報告された。発表では、運営委員会、KRMC、品質ワーキンググループ、AIMM資料の翻訳など、さまざまなKAQG委員会およびワーキンググループの活動についても取り上げられた。また、来年開催される韓国航空宇宙・防衛展示会 (Seoul ADEX 2025) のプロモーションビデオも上映された。

(4) 中国 (CAQG)

(Zhao Yun (COMAC))

協議会会議、総会、セミナー、作業部会活動など、グループの活動に関する最新情報が紹介された。AS9100シリーズ改訂のための



規格作成チーム、AIMM資料の翻訳、SCMHプロジェクトへの貢献など、CAQGメンバーのAPAQG作業部会への参加について取り上げられた。中国におけるSCMH資料の翻訳と普及に関する最新情報、およびNadCapチームの活動（監査基準の更新や技術コンサルティングサービスの提供など）についても報告された。また、CAQGのIAQG作業部会への参加と、その貢献に対する評価についても紹介された。

3.4 総会

総会における承認及び決定事項は以下の通りであった。

- ・第41回APAQGバンコク会議議事録が承認された。
- ・2025年春季セクターミーティングは、2025年3月12日～14日、インドネシアで開催する。
- ・Collins Aerospace Philippinesのメンバーシップを維持する。
- ・2024年の予算執行状況、2025年の予算申請内容について承認。

3.5 所感

今回のAPAQG会議は、10月16日～19日にかけて開催された国際航空宇宙展 (JA2024) と、10月21日～24日にかけて開催された後述



APAQG東京会議参加者集合写真（ウェスティンホテル東京）

するIAQG会議との間の1日開催となったため、各分科会については開催されず全体会議のみであったが、テーマによっては活発な議論も行われ、有意義な一日となった。

なお、親睦を深めるための夕食会では中国COMACのLou氏がAPAQGに対する長年の貢献を称え、表彰された。ご本人は驚かれた様子でありながらも、立派なスピーチをされたのが印象的であった。



表彰を受けるCAQGのLou氏

4. IAQG会議

IAQG（International Aerospace Quality Group）東京会議が、2024年10月21日（月）～24日（木）に開催された。

国際航空宇宙品質グループ（IAQG）は、世界の航空宇宙及び防衛関連企業が互いの信頼に基づいて強力な協力体制を構築・維持することにより、価値創造の流れの全段階において品質の著しい改善とコストの削減を実現する活動を推進するために1998年に設立した組織であり、アメリカ地区のAAQG（American Aerospace Quality Group）、アジア太平洋地区のAPAQG（Asia-Pacific Aerospace Quality Group）及びヨーロッパ地区のEAQG（European Aerospace Quality Group）により構成される。JAQGはAPAQGおよびIAQGの主たるメンバーであり、日本の航空宇宙産業界の意見を国際品質規格や国際航空宇宙認証制度のルール等に反映させるべく活動を行っている。



IAQGの主な活動目的は次の3点である。

- ・航空宇宙業界独自規格（9100シリーズ規格）の制定及び維持
- ・品質改善のためのガイダンス資料の提供
- ・9100シリーズ認証制度の開発及び維持

会議は、IAQG総会及びそれに先立って開催される執行委員会（Executive Committee）、Operation Council並びに各種分科会をもって構成され、中長期戦略の検討及び作業進捗状況の確認・調整等が行われる。これらについては後述する。

JAQGは、APAQGの中で最も積極的な活動を行っており、ほぼ全ての会議へ参画し、我が国の意見、特に最近ではSingle-SDO（Standards Development Organizations）実行状況の確認、9100シリーズAQMS（Aerospace Quality Management System）規格の厳格適用（9100（製造）、9110（整備）、9120（販売）それぞれの組織の業態に合わせた適用）に向けたIAQGとしての統一解釈の確認を行うとともに、APAQGの意見をIAQGに提案及び反映する作業を行っている。

(1) 総会（General Assembly）（最終日に開催）

総会では、執行委員会（Executive Committee）報告、各セクター（AAQG、EAQG、APAQG）からの報告、会計報告及び各分科会活動の進捗報告が行われた。

APAQGからの報告では、川崎重工業(株)の上原氏より、メンバーシップ動静、JA2024におけるIAQGブース運営、認証システム相互監視の取り組み、防衛／宇宙ステークホルダーとの関係強化、若手技術者の参加及び各セクターとの協業などについて紹介された。

総会の決議事項は下記の3件であり、すべて承認された。

1. 2024年4月にブリュッセルで開催された総会の議事録の承認
2. 財務リーダー任期満了に伴う継続の承認
3. 2025年IAQG予算案の承認

これらの承認は投票メンバーにより行われたが、27名の投票メンバーは、AAQGの10名、EAQGの10名、APAQGの7名から構成されており、APAQG投票メンバーのうち、4名がJAQG（Japanese Aerospace Quality Group）から選出されている他、中国2名、韓国1名である。



総会の様子



投票メンバー



IAQG会長 Eric Jefferies氏



APAQGセクターリーダー 上原氏

(2) 執行委員会 (Executive Committee)

執行委員会は、IAQG会長、各セクターリーダーから構成され、IAQGの組織運営に関する重要事項を討議する委員会である。毎月オンライン会議で実施されており、IAQG会議の際に面着会議が行われている。

今回は、①各活動人材確保の現状と課題及び方策、②関係強化戦略分科会の作業進捗説明、③2024年財務状況及び2025年予算案並びに総会提案資料確認、④規格翻訳プロセス進捗状況、⑤IT関連作業進捗及び将来計画、について議論した。

下記に執行委員会メンバーの写真を示す。これより分かる通り、IAQGは会長を含め、各企業からのボランティア人員で運営されている組織である。

(3) IAQG Operations Council

IAQG Operations Councilは、議長の元、IAQG会長、各セクターリーダー、財務管理チームリーダー、各分科会リーダー及びIAQG投票メンバーの参画により運営され、各分科会の活動方針の検討・設定等が行われる。今回は、以下の点について各リーダーから説明があり議論を実施した。内容の主な項目については本誌(1)のGeneral Assemblyでも報告された。

- ・ IAQGによる審査員資格証明について
- ・ 認証オーバーサイト活動について
- ・ パフォーマンス評価について
- ・ IAQGによる教育・個人認証について
- ・ OASIS V3運用状況について
- ・ Finance (財務) の状況について



Executive Committeeのメンバー (IAQG HPより)
 左から上原 美基氏 (APAQGセクターリーダー：川崎重工業株式会社)、
 Eric Jefferies氏 (IAQG会長：Textron)、
 Fortunato Giardina氏 (EAQGセクターリーダー：Leonardo)、
 Barrie Hicklin氏 (AAQGセクターリーダー：Honeywell)

(4) IAQG規格検討ワーキンググループ

本分科会では、9100規格（日本ではJIS Q 9100として発行）をはじめとする9100シリーズ規格（9100《組織全般：製造》規格とそれを基に作成されている9110《整備組織》、9120《販売業者》）及び9115《納入ソフトウェア》規格）を含む品質要求事項の規格が規定する内容を議論のうえ決定している。今回の会議では、会議メンバー構成・登録状況報告、

IAQG規格作業に関する規定の改訂内容紹介、規格翻訳作業の改善検討状況の紹介等が行われた他、9100規格等のIAQGで現在新規開発・改正中の規格についての作業状況報告及び協議が実施された。また、9100規格に基づくQMSを必要としない組織向けに、製品品質に重点を置いた品質システムを規定する9150規格の検討を新たに開始することが紹介された。



IAQGが発行する規格

JAQGからはAPAQGにおける規格関連活動として、東京で併催されたAPAQG会議の概要と、各規格のアジア太平洋地域代表であるSDL（Sector Document Liaison）の登録状況、SJAC規格開発・改正状況が報告された。

JAQG規格検討ワーキンググループでは、従来のスキームでIAQGでの作業が完了した規格に対応する日本国内規格の新規制定・改正作業を進めると共に、新スキームであるSingle-SDOの下で、IAQG規格日本語翻訳版が適切かつ適正に発行されるよう、翻訳を含むIAQGでの規格活動に引き続き参画し支援する予定である。主な規格関連作業の分科会活動状況を以下に紹介する。

a IA9100規格「品質マネジメントシステム—航空、宇宙及び防衛分野の組織に対する要求事項」

2024年春に開催されたブリュッセル会議では、IA9100規格の調整ドラフトに対するコメントにつき、処置方針を決定し、IA9100規格案に反映した。また、同時に執行委員会（Executive Committee）よりIA9100規格改正に対するプロセス透明性確保の為、9100独立レビューチームを立ち上げることが説明され、規格改正は一旦立ち止まり、独立レビューチームの提案を待つことになった。

今般9100独立レビューチームから提案が示され、IA9100チーム及び9100独立レビュー



9100チーム集合写真（日本から、西口氏（MHI：前列右端）、白井氏（KHI：後列左から3番目）

チームで詳細内容について協議を進め、IA9100規格又はガイダンス文書に反映していく事項を決定していく予定である。また、ISO9001改正及び発行が2026年9月まで遅れるとの発表がなされたことから、IA9100規格発行スケジュールは9100独立レビューチーム及びISO9001改正スケジュールを鑑み、今後執行委員会と共に協議していく予定である。

b 9110規格「航空分野の整備組織に対する要求事項」およびMRO*

本分科会にはJAQGから2名が参加した。今春に行った9110改正案へのコメント47件の検討を完了した。特記事項は次の通りである。
①認証範囲については9104-3に拠ること、②製品安全での報告要求は本文に入れたものの方法は組織に委ねること、③要求を外部提供者にフローダウンする要求を明確にしたことの3点であった。

9110規格改正の進め方について、9100シ

リーズ全体の動きに追随していくことを確認した。

今回からこのチームを中心として、MRO（Maintenance Repair and Overhaul：整備・修理・オーバーホール）全体の状況についても継続して情報交換をしていくことになった。今後、民間と防衛両方のMROの状況、世界の規制当局の動きやそれに対する業界の対応状況を共有し、業界として必要な統一アクションの方向を話し合う予定である。

今回はEASA（European Aviation Safety Agency：欧州航空安全機関）のMRO組織認定の強化や防衛MRO規制の深化の動向、FAA（Federal Aviation Administration：連邦航空局）のEASAとの協調動向、アジアの規制当局の動向や、日本においては防衛省共通仕様書DSP Z 9008に9110に関する記載が決まった（DSP Z 9008 C 令和6年9月25日改正 防衛省HPに掲載済み）ことなどを共有した。



9110チーム集合写真（日本からは、佐藤氏（SJAC：後列右端）、山本氏（IHI：前列中央が出席））

c SCMH (Supply Chain Management Handbook) SMS (Safety Management System) Project

JAQGから9110チームに参加している2名（SJAC 佐藤氏、IHI 山本氏）が参加した。オープン会議で3日間開催だったこともあり、日本とアジアから連日入れ替わりで多数の出席者があったことに加え、米国と欧州からのリモート参加もあり、関心の高さがうかがわれた。FAAが2025年にMRO以外の設計・製造の分野の組織にSMSの実行を求めていることもあり、業界全体でSMSへの関心が高いのであろう。

会議では、前週までにチームでとりまとめた案のClause to Clause（一言一句）確認を完了した。大きく三つの章（概要、QMS-SMS関係、ガイダンス（ツールや事例の紹介））にまとめ、2024年末発行を目指し作業を進めることで合意した。

なお、前述したJA2024にてIAQGブースを

来訪されたJAQGメンバーの方より、このSMS ProjectとJAQG SCMHワーキンググループへの参加希望があり、JA2024へのIAQGブース出展の効果及び日本でのIAQG会議開催のメリットを大きく感じるようになった。

(5) 関係強化戦略分科会（国際スペースフォーラム：International Space Forum）

スペースフォーラム（以下、SF）は、9100シリーズ規格への宇宙固有の品質要求の反映と宇宙分野のステークホルダーとの関係強化を主たる目的として活動を行っており、JAQG SFは、APAQGの代表として出席している。宇宙関連企業に加え、主要ステークホルダーである宇宙関連機関（NASA（アメリカ航空宇宙局）、DCMA（アメリカ国防契約管理局）、ESA（欧州宇宙機関）、JAXA（宇宙航空研究開発機構））等が参加しており、本国際SFは綿密な情報交換の場となっている。

本会議では、AAQG、EAQG、APAQG各セクターのSF活動報告として、新たなステークホルダーへの啓発活動や、各セクター内における規格化／標準化活動の状況が共有された。また、主要ステークホルダーによるIAQG-1 SMC投票権所持に関するステークホルダーニーズのSF活動への取込方法の検討や、SCMH7.17章「宇宙分野への適用」の次期改版に向けたWG（Working Group）の活動状況共有、国際SFとしての今後の活動方針等、宇宙製品及びサービス保証やスキームに対する提案等の議論が活発に行われた。

アジア太平洋のセクター活動からは、9月に開催されたAPAQG SF会議の結果をはじめ、IAQG-1 SMC投票権の宇宙領域の主要ステークホルダーによる所持の機会に対してアジア太平洋地区からJAXA殿による投票権の所持が開始したことや、9100成熟度評価モデル（AIMM：Aerospace Improvement Matured Model）のメンバー会社による活用例、更なる関係強化のためのプロモーション活動として、APRSAF-30（30th Asia-Pacific Regional Space Agency Forum：オーストラリアにて11月開催）に向けた計画等を報告した。

今後もAPAQGの代表として、セクター内

の宇宙業界への啓発を図るとともに活性化を推進し、当該活動をIAQGへ反映出来るよう積極的に参画していく。

(6) 認証オーバーサイトチーム（Certificate Oversight Team：COT）

COTは、航空・宇宙・防衛分野の品質マネジメントシステム認証制度の運用に必要な規格（要求事項）の制定・維持、および認証制度の世界的な運用・管理等を行っている。今回の会議では、EAQG・AAQG・APAQGの3セクターから業界（主要製造メーカー）、認定機関、認証機関それぞれの代表者の参加のもと、認証制度の運用に必要な9104シリーズ規格（3規格）および9101規格の改正投票（IAQGメンバー企業による投票）の進捗状況の確認、認証に関するデータベースの新バージョン（OASIS V3）の開発状況に関する確認・調整、9104シリーズ／9101規格による移行（再開）に向けたスケジュールの確認、3セクターにおける業界オーバーサイト活動の実施状況、改訂検討中のレゾリューション（規格を補足する特定事項に関する要求事項）の確認・調整、などが行われた。



国際SF会議の様子

（日本から、立岡氏／栗屋氏／伊吹氏（NEC）、松根氏（MHI）、武内氏（MELCO）、松井氏（IA）、櫻庭氏（IHI）、鈴木氏／葛西氏（JAXA）が出席）

(7) 製品及びサプライチェーン改善分科会
(Product and Supply Chain Improvement)

本分科会は、製品やサプライチェーン改善のための活動支援を目的とした活動を行っている。その一つがSCMHの作成・維持であり、サプライヤが顧客の期待や組織目標を満たすための取組みについて、その具体的な方法や優良事例を文書にまとめ提供している。

これまでに発行した文書は200点以上のほり、現在も精力的にSCMHの開発を続けている。またSCMH利用促進を図るために数年前よりAAQG・EAQG・APAQGそれぞれで「SCMHネットワーク会議」を開催し、各セクターでのプロモーション活動を継続している。アジア太平洋セクターでは東京会議期間中の10月22日にネットワーク会議（ウェビナー）を開催し、SCMH概要の紹介や文書の入手方法について説明を行った。

現在、新規SCMHとしてPPAP（Production Parts Approval Process）Approval Delegation Process、Safety Management Systems SMS、Special Characteristics Definitionを作成中であ

る。近年世界的にSafety Management System（SMS）の重要性が再認識されており、東京会議でもSMS SCMH作成チームによる活発な議論が交わされた。今後リリースされるSCMHに期待いただきたい。

(8) パフォーマンス評価分科会（Performance Team）

初めての試みとして実施した一般ユーザー（IAQG HP登録者）向けのアンケート結果について議論し、アンケートへの回答者は品質分野で15年以上の経験を有する者が多いこと、全体的にIAQGに対して好意的な回答が多く、中でもアジア太平洋地区からの回答は欧米に比べても好意的であること等が確認された。

特徴的な点として、IAQGは航空・宇宙・防衛産業界の品質改善に寄与しているとの意見が94%と多い一方で、サプライチェーンの品質改善に寄与していると考える人は83%と比較的少ないことが確認され、IAQGにおける課題の一つであるとの認識が示された。



Performance Teamメンバー
(右 池崎氏 (IHI))

継続して取り組んでいるダッシュボード（各組織の品質指標、IAQG各チームのKPI到達状況等の表示）構築活動についても議論がなされた。IAQGのHP（メンバーサイト）に表示するダッシュボードの素案が完成したのでチーム内で共有するとともに、KPI（Key Performance Index：重要業績評価指標）到達状況の表示方法についてICOT（International COT）チーム及びPSCIチームとの意見交換を行った。PSCI（Production and Supply Chain Improvement）チームからはSCMHの項目別ダウンロード件数を表示することが要望されているが、アジア太平洋地区の各国語版（日本語版および中国語版）のSCMH公開方法ではこれらのデータ取得対応できないことがAPAQGのリーダーから報告され、アジア太平洋地区のデータを含まない状態でダッシュボードを構築していくことを決定した。

(9) コミュニケーション（Communication Team）

コミュニケーションチームはIAQGホームページ、PodcastやLinked Inなどのコミュニケーションツールを用いて、IAQGの活動を広く浸透させることを目的として活動をおこなっている。今回の会議では以下の3つのテーマについて情報交換を行った。

①JA2024の結果共有

本稿冒頭でも触れたJA2024の状況について共有を行った。来訪者はトレード・デーの3日間で約100人、パブリック・デーにも多くの来訪者があったことを報告。また来訪者の殆どが9100規格を認知しているのに反しIAQGの知名度が低いことを報告し今後の課題であるとの共通認識に至った。

ブースの展示についてはおおむね妥当と考えられるものの、動画の見せ方については、漫然と流すのではなく、時間を決めて肉声を交えた方が効果的ではないかとの意見があった。



Communicationチーム
（右端は服部氏（SJAC）。撮影者は城福（SJAC））

JA2024はIAQGにとって初めての展示会出展であったが、良い結果であったとの認識で、この経験を活かし、積極的に他の展示会への参加出展も行っていく方針である。

②EAQGにおけるCommunicationチームの活動報告

EAQGは、EAQGとしてのCommunicationチームを構成しており、メンバー毎に役割を決めて、担当分野（例えばMRO）に関する情報収集を行い、定期的に会合を行うなど、活発に活動していることが報告された。AAQGやAPAQGについても同じような活動ができるか検討をすることとなった。

③IAQG Master Calendar

CommunicationチームはIAQG全体の動きを把握するために、各分科会の情報収集を行い、必要な時に適切なツール（PodcastやLinked In）による広報活動を行うために“カレンダー”を作成している。チーム内で役割分担の再確認および今後の情報収集について情報共有を行った。

5. おわりに

冒頭にも述べた通り、10月はイベント及び会議が連続する大変充実した月となった。IAQGにとって初めての展示会への出展となったJA2024では展示会出展経験を得ることができた一方で、IAQGの知名度向上と言う課題が明確になり、有意義であった。続けて行われたAPAQGは1日開催となったものの、改めてAPAQGにおけるJAQGの存在感を示すことができた。

21日から24日にかけて開催されたIAQG会議では、規格発行手順の改訂、規格の改訂作業状況、SCMHの開発及び関係強化戦略分科会の活動状況などについて、対面ならではの活発な議論が行われた。

出席者の関心の高かった9104シリーズ／9101規格による移行（再開）に向けた明確な日程が示されず、また今後の規格発行に大きな影響のあるSingle-SDOについても未だ各セクターと調整中であるなど、課題を抱えたままでの閉会となったが、各参加者は会議後も精力的に議論を続けており、近いうちに解決に向けて前進するものと信じている。



Samurai Experience
（左：侍体験 右：鵬玉会の方による演武）



表彰を受ける立岡氏（中央：日本電気株式会社）
 背後はExecutive Committeeのメンバー、左からEric Jefferies氏（IAQG会長：Textron）、
 Barrie Hicklin氏（AAQGセクターリーダー：Honeywell）、
 Fortunato Giardina氏（EAQGセクターリーダー：Leonardo）、
 上原 美基氏（APAQGセクターリーダー：川崎重工業株式会社）

また会期中には会員間の親睦を深めるための夕食会も開催された。今回は日本開催なので日本文化の紹介をと言うことで、Samurai Experienceと称し、無外流居合の鵬玉会の皆さんにお越しいただき、居合をご披露頂いた。これは、前半と後半の2部建てになっており、前半は参加者による侍体験、後半は鵬玉会の方による演武であった。前半では人型の段ボールを模擬刀で切る、すなわち、「昨日までの自分を切って別れを告げ、新たなる自分と向き合っていくのである」との説明がなされる中での体験であった。後半は凛とした雰囲気の中で真剣を用いた居合の演武披露がなされ、参加者は一様に日本文化に感銘を受けたようであった。

また、IAQG活動に貢献された方々の表彰がなされた。特に今回はKey Contributor Awardとして日本電気の立岡氏が表彰された。これはIAQG全体から1年に1名しか受賞しない賞であり、JAQGとしても非常に誇らしい受賞であった。立岡氏はSpace Forumの活動をリードし、目覚ましい成果を挙げておられることが評価された。

今後も日本国内における関係部署（省庁及び団体並びに会員企業）とのよりきめ細やかな連携を図るとともに、引き続き積極的にIAQG活動に関与して行く所存である。

〔(一社) 日本航空宇宙工業会 航空宇宙品質センター 事務局 部長 城福 隆司〕